SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

長岡みんなのSDGs

SDGsは、2030年までに世界の様々な社会課題の解決を目指す17の目標。
世界で取り組むSDGsにも、地域で取り組む市民活動にも、「誰一人取り残さない」という同じ想いが込められています。

詳しくはこちら

3 すべての人に健康と福祉を — 市民を巻き込み、健康づくり活動の輪を広げる!

ながおか医療生協フィットネスレインボー

様々な世代に運動を通じて健康を届けることを理念とし、健康維持・増進のためのまちかど健康チェックや各種運動教室を開催。健康づくりを広めるサポーター「元気とどけ隊」の養成や自身の身体の衰えを確認するフレイルチェック、健康ウォーキングなどを元気とどけ隊と協働して行い、老若男女に健康的な生活習慣を広めています。誰もが心身共に健康な明るいまちを目指して活動を継続していきます。

12 つくる責任 つかう責任 — 「大切に使って」絆ピアノの恩送り

いのまたピアノ

ピアノの調律や中古品の買取・販売などを行っています。大切なピアノを、やむを得ず手放したいという方と、ほしいけれども様々な理由で購入までは難しい、という方をつなぐ「絆ピアノ」という取り組みを数年前から始めました。また、ピアノを駅や景勝地に設置し、誰でも自由に弾けるイベントも行っています。多くの人にピアノに対する親近感をもっていただき、地域の音楽振興にも寄与できればと考えています。

市民活動・虎の巻 /// 研究テーマ /// 「やりたい」をカタチにする企画づくり - 対象から考える編 -

皆さんはどんな風に企画を考えていますか? 今回は対象から考えを進めていくステップをご紹介します!

1 対象・受益者

まずどんな人に向けて企画をつくりたいのか考えましょう。年齢や性別だけではなく、職業や役職、趣味や嗜好なども入れて対象をしぼりましょう。

年齢 性別 / 職業 役職 / 趣味 嗜好

2 悩み・ニーズ

①でしぼった対象が普段どんな悩みやニーズを抱えているのか考えてみましょう。悩みやニーズは抽象的な方が良いと思いがちですが、具体的な方が対象者に響く企画になりやすいです。

プラスアルファ +α 根拠

3 解決方法

②で考えた悩みやニーズに応えるために適切な方法を考えましょう。同じ内容であっても、対象が変われば企画や見せ方が変わってきます。企画側のやりたいことばかりに注目せず、あくまでも対象がブレないように進めましょう。

4 具体的な内容

対象が「参加したい!」と思うような内容にするのはもちろん大切ですが、対象者が「参加できない理由」も作らないよう意識しましょう。開催日時、場所(アクセス方法)、参加費などは特に配慮が必要です。

効果・効用

実施後の効果についても考えておくと、より厚みが出て魅力的な企画になります。

MEMO 次回11月号では内容から考える企画のつくり方をご紹介します!

企画づくりをサポートする「アイデア整理シート」を、ホームページからダウンロードいただけます。ぜひご活用ください。

センターからのお知らせ

広報物の作成に役立つ
「七つ道具」が無料で使えます!

「チラシをたくさん印刷したい」「印刷したものをまとめたい」。そんなときは、協働センターに常備してある「七つ道具」を使ってみませんか?

※営利・政治・宗教を主目的とした活動にはご利用できません。

1. **印刷機** 原稿と印刷用紙を持ち込み、チラシなどを白黒印刷できます。 ※1原稿につき印刷枚数50枚以上3000枚以下でお願いします。
2. **紙折り機** B6~A3までの用紙を2つ~4つ折りにできます。
3. **丁合機** 複数の書類を簡単に組み合わせられます。
4. **穴あけパンチ**
5. **大型ホチキス**
6. **裁断機**
7. **ラミネーター** ※ラミネートフィルムは各自ご用意ください。

+カ ラコラて 2021.10.1 vol.106 TAKE FREE 発行／ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザ アオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail.kyodo-c@ao-re.jp URL.https://nkyod.org

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

+カ つながるラジオ FMながおか80.7MHz 毎週月曜17時頃~
「NAGAOKA PLAYERS」と「長岡みんなのSDGs」を放送中!

+カ 市民活動のポータルサイト コライト

要チェック! タイムリーな情報と協働センターの日常

@NkyodoCenter @nagaoka_kyodo @nagaoka_kyodoc

知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌

ラコラて

2021 10 Vol.106 TAKE FREE

地域とアーティストの幸せな関係

特集
加治 聖哉さん
今井 翔太さん

NAGAOKA PLAYERS
稲垣 仁美さん

長岡みんなのSDGs
ながおか医療生協フィットネスレインボー
いのまたピアノ

市民活動・虎の巻
「やりたい」をカタチにする企画づくり - 対象から考える編 -

+カ +カ カ ながおか市民協働センター

「地域とアーティストの幸せな関係」アーティストが地域で活動する理由

らこって編集部が長岡市を縦横無尽に駆け回って見つけた、協働や市民活動に関する話題をお届け!
今回のテーマは「地域とアーティストの幸せな関係」。
7月に行われたとあるイベントの対談から、アーティストが地域で活動する理由を紐解きます。

加治 聖哉さん

1996年村上市生まれ。小さい頃から好きだった動物をモチーフとした作品を廃材で制作。地域おこし協力隊としてギャラリー「白昼堂堂」を運営しながら、栃尾地域の活性化に取り組んでいる。2017年自身初の個展開催、2019年地域おこし協力隊就任、2020年ギャラリー「白昼堂堂」オープン。

今井 翔太さん

1996年長岡市生まれ。新潟県中越地震・中越沖地震の経験から「不条理な出来事とその克服」をテーマに、主に絵画作品を制作。和島地域で自分の作品の方向性を模索しながら、海外で活躍できるアーティストを目指している。2017年日本の美術家の団体(1930年創立)主宰の展覧会で入選、2019年自身初の個展開催。

イベント時の対談の様子。当日は、お2人からの本音トークもあり大盛り上がりでした。

「アーティスト」と聞くと、多くの人たちが思い浮かべるのは都会で活躍する芸術家たちではないでしょうか。しかし皆さんが住んでいるこの長岡市には、拠点にあえてローカルを選び、地域の人たちと関わりながら活動しているアーティストがいます。今回お話を伺ったのは、加治聖哉さんと今井翔太さん。なぜ、2人のアーティストは活動拠点にローカルを選んだのか。その理由は、「地域とアーティストの幸せな関係」にありました。

ローカルで活動する2人のアーティスト

加治さんは大学卒業後、有名アーティストの制作会社に就職。海外の展示に関わるなどアート業界の最前線を経験しました。海外を回るうちに、都会ではなく自然あふれる田舎で活動したいと思うように。そんな時、学生時代にボランティアで訪れていた栃尾地域の知り合いから声をかけられ、2019年に地域おこし協力隊に着任。「栃尾をパリのような芸術の街にしたい」と、自身の作品制作や展示だけでなく、空き店舗をリノベーションしたギャラリーの運営や、市民向けワークショップの開催など、アートを通じた地域活性化に取り組んでいます。

一方、今井さんは海外で活躍するアーティストになるのが目標。そのために、美術史の流れを汲み、強いコンセプトを持った作品づくりを模索しています。「もちろん東京にいた方がチャンスはあるかもしれませんが、東京では業界内の派閥やポジション取りなどに振り回されることも多い。今は作品の方向性を定めるために、自分自身と向き合う時期。地方にいた方が周りに振り回されません」と、地元新潟を拠点に選びました。

アートが地域にもたらすもの

今井さんは自身の方向性を模索する一方で、和島地域の市民活動団体「椿の森倶楽部」から壁画制作の依頼を受け、地域の歴史を一枚の壁画に詰め込んだ作品「幾千の和」を弟の今井駿哉さんと共同で制作しました。「好きな作品を描いてと言われたのですが、この地域のこの場所に置くならと考えた時に、地域性を踏まえた作品にしようと思いました」。地域の歴史がアート作品に昇華されたことで、住民同士が住む場所の歴史を見直す機会とともに、新しい会話や外とのつながりが生まれました。また、今井さんにとっても「自分が帰って来られる場所、応援してくれる人ができたことが何よりの喜びでした」。

加治さんは、「杜々の森名水公園　アトレど」とコラボして常設展示「廃材水族館」を制作。展示された千匹のイワシは、栃尾の織物工場で使われていた糸巻きや、飲食店などで集めたワインのコルク、割り箸で作りました。廃材アートを通じて地域産業の歴史を伝えるとともに、アート作品が地域の新しい名所となり、人々が足を運ぶきっかけをつくっています。

ギャラリー「白昼堂堂」で行われた「とちおでマーケット」。木工ワークショップでは、子どもから大人まで楽しく作品制作を体験しました。

「幾千の和」を制作したときに行った完成披露イベント。地域内外から多くの人が集まり完成を喜びました。

ローカルで活動するからこそ感じる可能性

都心に比べアーティストの発表の場が少ないローカルですが、逆に競争相手が少ないのは大きなメリットだそう。「自分で発表の場さえ作れれば、メディアも地域の人たちも注目してくれます。お客さんとの距離も近い分、ファンになって応援してくれる人も多いです」と加治さん。実際2人は個展開催が、作品の販売や制作の受注につながっています。また、加治さんは大学時代に学んだ彫金技術を生かして指輪や髪飾り等のアクセサリーの制作を、今井さんはロゴデザインなど、アート周辺の仕事を頼まれることも。その他にも、加治さんは普段から声をかけてもらったり、食べ物をお裾分けしてもらったり、地域の人たちから支えてもらっている実感があると言います。「応援してくれる人の基盤があることが、アーティストとして勝負するにあたっても重要だと思います」。

さらに、海外アートフェアへの出展の可能性もローカルの方が高いかもしれないと今井さん。「アートフェアに出せるギャラリーはエリアごとに数が限られています。競争の多い東京に比べて、地方のギャラリーは実は穴場で、国際展に出してもらえるチャンスはあります。海外を目指すならローカルにいたほうが近道と言えるかもしれません」。

まとめ

アーティストに限らず、良きにつけ悪しきにつけ若い人のチャレンジに注目が集まるのがローカルの特徴。「やりたいことをやらせてくれる環境がある」と加治さんが語るように、やりたいことに取り組む人を、認め受け入れる環境があることは、地域の大きな魅力になるのではないでしょうか。

応援者の声

加治さんの応援者

小林和子さん

初めて会ったときは派手な印象を受けましたが、人柄を知っていくと自然と好きになりました。地域の人からもかわいがられ、私には孫のような存在です。

小黒知佳さん

どの作品もモデルの特徴や魅力が感じられて好きです。母へのプレゼントや自分用にいくつかオーダーさせていただきました。

今井さんの応援者

小林庄司さん

やりたいことをしっかりと持っている若者のエネルギーは凄い。今井さんのようなアーティストが活躍できる場が増えてくれると嬉しいです。

清野静子さん

地域への想いが伝わってくるような壁画を描いてくれました。今井さんは親しみやすい性格なので、制作中はお弁当を差し入れして応援しました。

ウワサのあの人にインタビュー!

NAGAOKA PLAYERS

人々が楽しく暮らすまちをつくる“豊かな”時間

稲垣 仁美さん(26歳)
会社員／シェアスペースオーナー

1994年上越市生まれ。東坂之上町にあるシェアスペース「CYAN(シアン)」のオーナー。心の豊かさのある暮らしを大切にしている。

足を踏み入れると最初に目に入る、両側を囲むコンクリート風に塗られたグレーの壁と、名前にもなっているシアン(明るい青)に塗られた正面の壁が印象的なシェアスペース「CYAN」。シェアスペースとは、人が集まり仕事や趣味など思い思いの時間を過ごすことで、新しい出会いを生む場所。オーナーの稲垣仁美さんは、CYANの運営を通して、訪れる人たちに心の豊かさを提供しています。

地域活動に興味をもつきっかけになったのは、大学2年生のとき、様々な地域活動に関わる先輩の影響を受け、学生団体が運営するシェアスペースを手伝うようになったこと。大学3年生になった年、運営を引き継ぎ、初めて主催したイベントが成功。「それまでは特技など自分を表現できるものが何もないと思っていましたが、自分が好きなことを発信して、それに共感する人が集まりイベントを楽しんでくれたことで、自信をもてるようになりました」。大学卒業後、転勤で移り住んだ長岡でも、好きなことにチャレンジしたいと思い、友人とイベントスペースの運営をスタート。その後、運営を引き継いでCYANが生まれました。

届けていきたいのは、“豊かな”時間。訪れる人が好きな時間を過ごしたり、自分の「好き」や新しい人に出会ったりすることで、地域での暮らしを楽しめるようになってくれたらうれしいと言います。「CYANでの時間をきっかけに、地域活動や自分を表現する活動を始める人が出てきたらいいなと思います。住んでいる場所で楽しく暮らす人が増えることが、結果的にまちづくりにつながると考えています」。

「これからも来る度に新しい発見がある場所を目指して進化し続けたい」と話す稲垣さん。自分と訪れる人の「好き」がいっぱい詰まったその場所は、今日も訪れる人にシアンの青のような晴れやかな気持ちを届けています。